

後悔しない人生を

泉中学校 二年 今井 麗愛

二〇二四年八月九日、一九時五七分。私は神奈川県西部で起きた、震度五弱に値する大きな地震を体験しました。それは、今までに体験した事のない大きな揺れでした。

その時、私は兄と祖母と一緒にリビングにいましたが、地震が起きた直後、兄と祖母は窓や玄関のドアを開けて、すぐに避難できるように行動していました。しかし、私は「家は潰れないだろうか」「窓ガラスは割れないだろうか」「この揺れはいつまで続くのだろうか」「この後にさらに大きな地震がくるのではないか。」と一瞬にして頭の中で不安が募り、手足が震えて動くことができませんでした。

また、母は帰宅中に地震に遭遇し、乗っていた電車が地震の影響で止まり、一時間以上閉じ込められて、帰ることができない状況でした。それが、さらに私の不安を大きくさせました。

そして、石川県能登半島沖で、震度七の巨大地震が起きたことを思い出しました。二〇二四年一月一日、一六時一〇分のできごとです。

この地震では、被害状況（二〇二四年三月五日時点）、人的被害一五四〇名（死者二四一名、負傷者一二九九名）、住宅被害八一七七一棟（全壊八〇二七棟、半壊一三二六六八棟、床上浸水六棟、床下浸水一九棟、一部破損五九九七棟）が報告されています。

ニュースや新聞の記事で見た時は、この地震についてあまり想像ができませんでした。しかし、実際に私が今回体験した震度五弱の地震よりもはるかに大きな地震だったと考えると、とても恐ろしく感じます。

突然の震災により、人生が左右され、家族を失い、今もなお辛い思いをしながら生活している方が多いと思います。亡くなってしまった方の中にも「まだ生きたかった。」と思っていた方もいたでしょう。

自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。今当たり前に過ごしている日常は、一瞬にして変わってしまう事があるということを震災を通して感じました。大切な人を失う前に、その人の為に何が出来るか考えて行動したいです。日頃から人に対して思いやりを持って、優しく接すること、人が困っていたら積極的に声をかけて話を聞いてあげることが心がけたいです。

「もっと人の役に立ちたかった。」「もっと家族を大切にすればよかった。」「もっと色々な経験をしたかった。」そんな後悔をしないように、一日一日を大切に過ごして私は生きていきます。